

働く女性のヘルスリテラシーと健康行動や労働生産性に関する横断研究

1) 今村 優子 1,2) 窪田 和巳 3) 森崎 菜穂 4) 鈴木 秀 1) 小山田 万里子 5) 大須賀 穰

1) 日本医療政策機構 2) 横浜市立大学医学部 臨床統計学 助教 3) 国立成育医療研究センター社会医学研究部ライフコース疫学研究室 室長

4) 東京大学大学院医学系研究科健康科学看護学専攻 地域看護学分野 5) 東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座

背景・研究目的

女性が、妊娠や出産・子育て、就労の継続等、自身のライフプランを主体的に選択し、且つ社会への貢献を実現するためにも、健康は重要な要素のひとつである。しかしながら、女性自身の健康に対する知識や健康増進に対する社会の支援は十分とは言えない。また調査チームでは、ヘルスリテラシー（以降HL）が女性の健康行動や労働生産性に影響を与えているという仮説を持ったが、女性特有のHLに焦点を当てた先行研究は極めて少ない。そこで、これらの関連性を検証すべく横断研究を実施した。研究結果をもとに、今後女性の健康増進に必要な対策を具体的に示すことを目的とする。

方法

【調査期間】 2018年2月2日～同年2月8日

【研究対象】

インターネット調査会社のモニターである18歳～49歳のフルタイム勤務女性2,000名を対象とした。年齢・地域に関しては、日本の人口動態と同様の比率とした。本人もしくは家族が医療従事者である者は除外対象とした。

【分析方法】

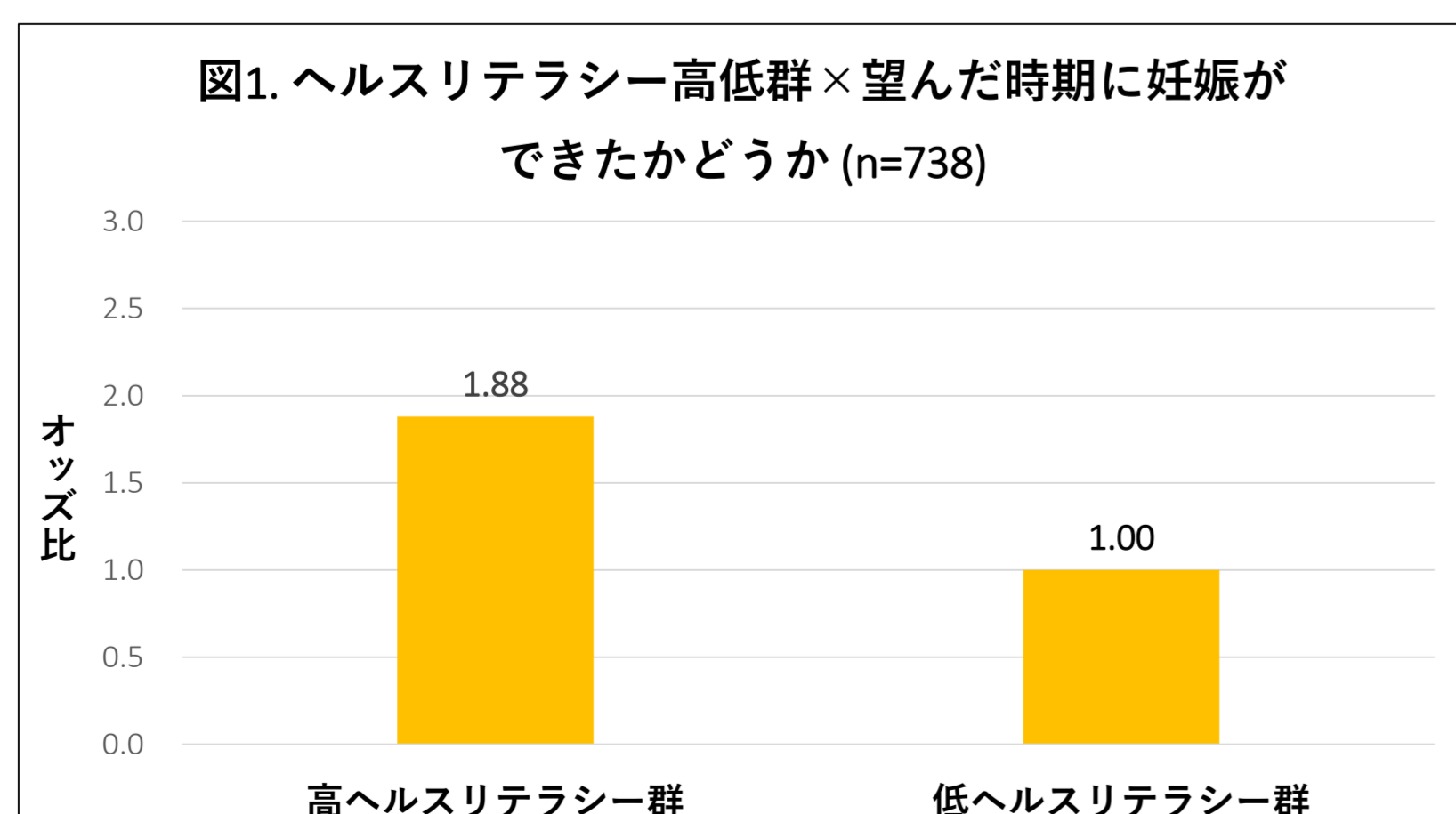
性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度¹⁾、WHO-HPQ日本語版²⁾、PMS（月経前症候群）・月経随伴症状時および更年期時の仕事のパフォーマンス、妊娠に対する希望、婦人科受診行動の状況を質問紙を用いて測定した。統計解析はヘルスリテラシーを独立変数、その他の指標を従属変数とした共分散分析またはロジスティック回帰分析を実施した。ヘルスリテラシーにおいては、尺度合計得点を中央値で二分し、「ヘルスリテラシー高群」および「ヘルスリテラシー低群」とし、2群間の比較検討を行った。

【倫理的配慮】

本研究の実施にあたり、一般社団法人 医療経済評価総合研究所倫理審査委員会の承認を得た。

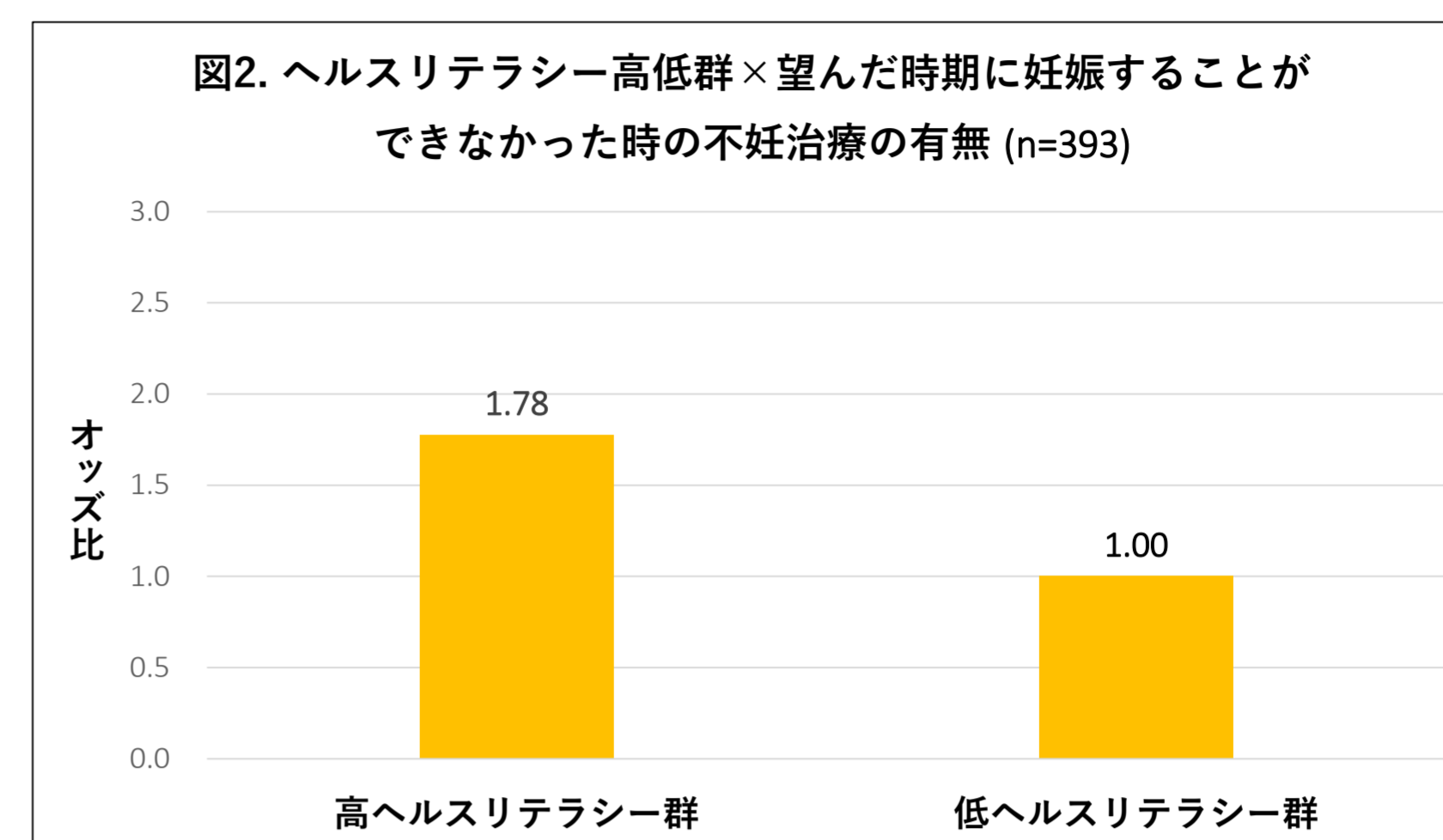
結果

健康行動に関しては、HL高群の方が、約2.2倍婦人科・産婦人科へ定期受診していた [P<0.01]。また、HL高群の方が、約1.9倍望んだ時期に妊娠していた [P<0.01]（図1）。影響を与えているHL尺度の項目は、「女性の体に関する知識」であった [P<0.01]。

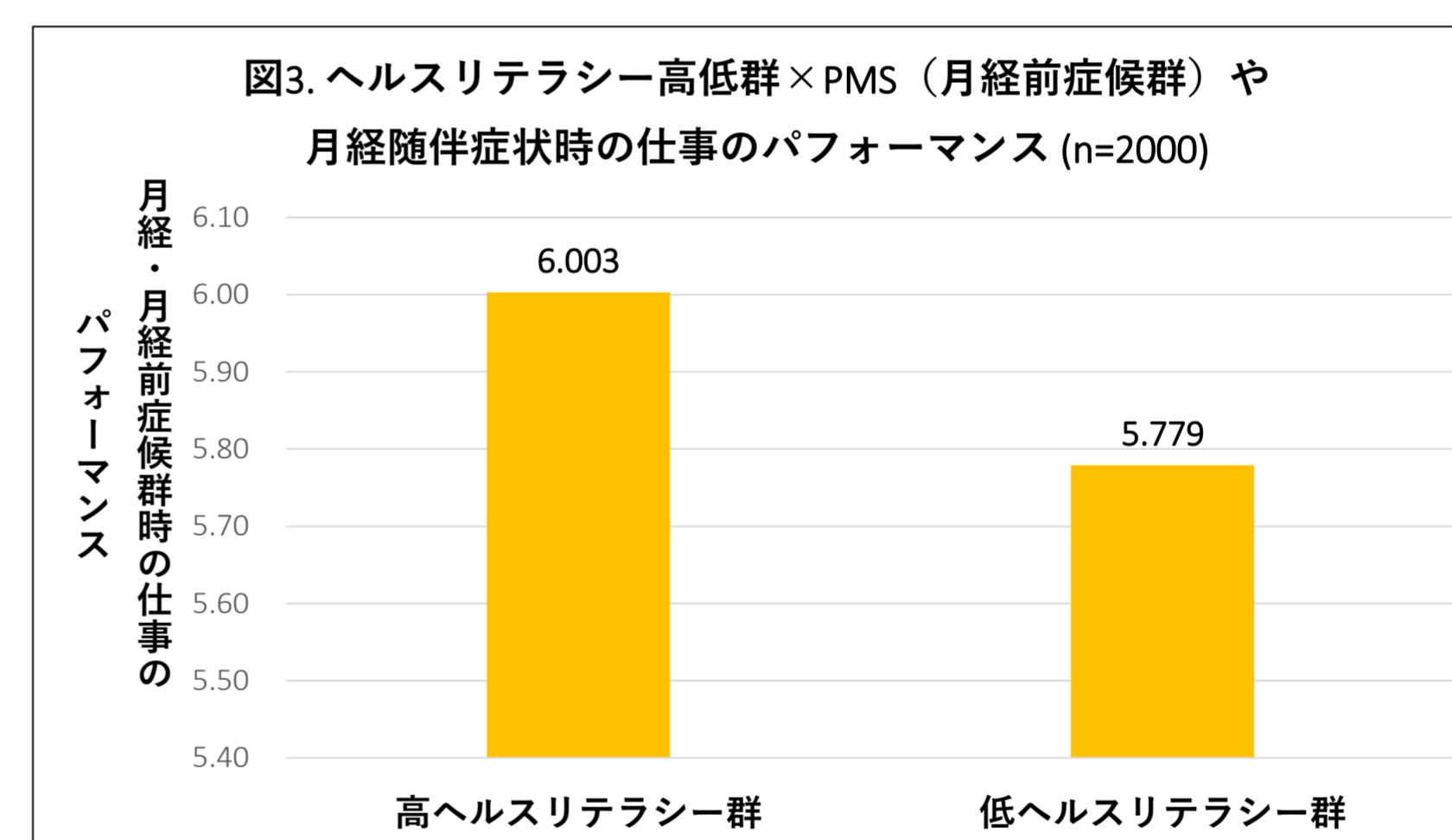


さらに、HL高群の方が、望んだ時期に妊娠ができなかった時に約1.8倍不妊治療をしていた [P<0.05]（図2）。影響を与えているHL尺度の項目は、「パートナーとの性相談」であった [P<0.01]。

結果



一方、労働生産性に関しては、HL高群の方が、1か月の総合的なプレゼンティーズムが低かった（仕事のパフォーマンスが高かった） [P<0.01]。さらに、PMS（月経前症候群）や月経随伴症状による仕事のパフォーマンスの変化を比較したところ、元気な状態の仕事のパフォーマンスを10とした場合、半分以下になると回答した人が約5割であった。また、更年期症状や更年期障害についても同様の比較をしたところ、半分以下になると回答した人が約5割であった。さらに、HL高群の方が、PMS（月経前症候群）や月経随伴症状時の仕事のパフォーマンスが高かった [P<0.05]（図3）。



また、HL高群の方が、更年期時の仕事のパフォーマンスが高かった [P<0.05]。これら両者の結果に影響を与えているHL尺度の項目は、「女性の健康に関する知識」であった [P<0.01]。

考察

女性の体に関する知識を持つことが、女性が望んだ時期に妊娠することと関連している可能性がある。また、不妊治療をする場合は、女性だけでなく、男性も理解を持ち、パートナーと話し合える環境が重要であると推察される。さらに、PMS（月経前症候群）や月経随伴症状、更年期症状や更年期障害については、多くの女性が仕事のパフォーマンスに影響を与えていると感じていることが明らかになった。一方これらの症状がある場合でも、HLの高さ、特に女性の体に関する知識を持っていることが、仕事のパフォーマンスの高さに関連性があるという結果が得られ、知識を持つ重要性が示唆された。

結論または今後の課題

女性のHLの高さが、健康行動や労働生産性に好影響を及ぼしていることが明らかとなった。また、女性特有の健康知識を持つことの重要性が示唆された。学校や企業等の教育機会において、これらの知識の提供が望まれる。

参考文献

1) 河田志保：性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の開発 女性労働者を対象とした信頼性・妥当性の検討。日本公衆衛生誌, 61巻(4) : 186-196, 2014

2) Kessler, R : The World Health Organization Health and Work Performance Questionnaire (HPQ) . J Occup Environ Med, 45, 156-174, 2003世界保健機関 健康と労働パフォーマンスに関する質問紙 日本語版